

## 6. 人間観

### 6-1 性別と年齢による人間の分類

子供は、生まれてから乳をすい（ト ヌンto nun）、母や兄弟に背負われて（パクカイ pakkay）、あやされて（トゥラシノットurasinot）いる頃、男も女も、小さな糞のついたもの（ポィシウシベpoysiuspe）とか、糞のかたまり（シオンタクsiontak）と言われる。

立ち歩きする頃、男の子は、ポン エカチpon ekaci、女の子は、オペレケプoperkepと言われる。4～5才になると、子供の特徴をとらえ、親の願いをこめて名前がつけられ、名前で呼びかけられる。この頃から小学校入学以前くらいまでの子をエカチekaciと言い、男の子はポィシ ポイ si 女の子はマツネ エカチmatue ekaciと言われる。

イオマンテのシケsike（荷）を背負ってヌササン（イナウを置いて神を祭る棚）まで運ぶのは、この年代の男の子の役目である。（2-3-9）。

中学生くらいの年齢になると、男の子はオクネ エカチokune ekaciと言われ、ひげも生え出す（レククルンrek kurun）。女の子はホン メノコpon menokoと言われる。女は15～16才で結婚適令期になり、母親からラウンクツraunkut（下帯）をつけてもらう。下帯は、母親の系統がわかる模様が入っており、位が高いほど帯の長さは長くなる。男の子は17～18才になると、キムン クルkimun kur（マタギ、狩人）となって大人について山猟に行き始める。初猟があると、「もう嫁をもらってもよいなあ」と周囲の者が言うようになる。

男は、結婚前も後もペウレクルpeurekurとかオクカヨokkayoと言われる。女は結婚前、ポン メノコであるが、結婚後はメノコmenoko、マチmaciと言われる。特に、結婚後の若い女性はペウレ メノコpeure menokoと言われる。（6-5）

孫ができると、男はエカシekasi、女はフチhuciと言われ、二人いる時には、若い方のエカシをペウレ エカシpeure ekasiと言う。フチになると女でも、カムイ ノミのことなど儀礼について孫に伝えてもよい。

更に年寄りになるとオンネ クルonne kurと言われ、男はオンネ エカシonne ekasi、女はオンネ フチonne huciと言われるようになる。〔石山長次郎・キツエ御夫妻 9月27日、10月11日〕

### 6-2 技能による人間の分類

イソウンクルisounkur～イソンクルisonkurは、猟にすぐれた人で、特に熊猟にすぐれた人が尊ばれる。イソisoは、一般に山から獲ってきたもので、特に鹿、熊をさす。猟が多いと `iso-

kip porono an kusu uimam an kusu ne "「猟したものが多いので交易に行く」と言う。イソは、山から神々がもってくる土産（イモカimoka）であるから、皆に快よく分け与えないと、後にイソ（獲物）に恵まれない、と言う。（7-4）

パルンクルparunkur は雄弁家のことで、パウエトクpawetok とも言う。

アシカイクルaskaykur は、手の（特に彫りものの）器用な男の人をさして言う。手の（チタラベcitarpe、サラニプsaranip作りの）器用な女の方は、テケ アシカラteke askarと言い、反対に女で、手の無器用な人はアイ カプペaykappeと言われる。

ラマンクルramankur は、頭がよく物覚えがよい者で、ことばもうまい者のことである。

ヌプルクルnupurkur は、霊力のある人で、トゥスtusuをする人を言う。（6-9-5）

ピカンクルpikankur は、足の速い者で、猟に行っても足が達者なので熊に追われても早く逃げることができる。熊送りの使いにも立てることができる。（2-3）

シレトク コロsiretok kor は、男であっても女であっても美しい人をさして言う。

カッケマツkatkemat は、働きものの女で、手も器用だし、食用植物でも薪でも、他の人より、いつもたくさん取る人を言う。

トランネtoranne とは、仕事をしない怠け者を言う。男をトランネ オクカヨtoranne okkayo、女をトランネ メノコtoranne menokoと呼ぶ。トウイタクにトランネ ウェン メノコforanne wen menokoの話が多く、フチからよく聞かされた。〔石山キツエ 11月14日〕

トランネ エカチtoranne ekaciのトウイタク

昔、たくさん仕事を言いつけられるエカチ（子供）が、仕事をするのが嫌いで、「月はいいな、仕事もせずに」と言うと、そのトランネ エカチは月に入って何もせずにいつも立っているようになった（cup osike ta as ruwe ne）。だから、子供は仕事をいやがらずにしないと、月の中に立たされるよ。

イラモクカiramokka は、いたずら者で人をばかにする者を言う。

### 6-3 身分による人間の分類

ニシパnispa は、イソウンクル、パルンクル、ラマンクルで宝物を多くもっていて、他人をよく助ける人を言う。

シノ ニシパsino nispa は、コタン コロ ニシパkotan kor nispaとも言われ、プーpu（倉）を、普通は1～2個なのにくつも持っている人であり、困っている村人に恵んでやるし、村人もシノ ニシパの言うことによく従う。今で言うと、町長か村長のことである。

ウェンクルwenkur は貧乏人で、イペサクipesakとも言う。獲物も少なく猟漁が下手な人である。〔石山長次郎・キツエ御夫妻 11月14日〕

#### 6-4 家系

ある人の祖父、父とも2代にわたって殺された。それで、ある人の母方祖父が熊に土産をもたせ、守り神になってくれるようお願いすると、ある人の代から後の代にかけて、熊の災いがなくなった。

ある家系は、ラマンクル ramankur (頭と心がよい人) の家系で、その家系からは、あまり金持ちになるニシパは出ないが、雄弁で、チャランケ caranke をよくし、人助けをする人物が出る。また、他のある家系な、頭はよくなくてもよいから、裕福でニシパの多く出る家系になるようにと、ある頭のよいエカシが神にお願いしたので、次の世代から裕福なニシパが多く出た。

[石山キツエ 11月14日]

ある家系は、カンナカムィ kanna kamuy (雷神) の血統で、色白であり毛深くないが、他のある家系は、キムンカムィ kimun kamuy (熊の神) の血統で、一族の者は皆毛深い。

[伊沢ヒサさんが、あるフチ huci より聞いた話 12月5日]

#### 6-5 結婚

女の子は、生まれる前から、女の子が生まれるなら嫁にくれ、と言われることがある。生まれるとすぐに親同士が許婚者にする。許婚者は、ポン ワノ ウレシカカラ pon wano ureska kar と言う。許婚者の一方が死ぬと、残った者は、男も女も食事もせずに死んでしまうのだった。

許婚者の女は、よくニントチ nintoci (河童) やチロンヌブ cironnup (キツネ) にほれられて、邪魔をさせる (イシンニレプ isinnirep) ので、大人になったら、男は早く許婚者に会いに行けと言われる。

男は、男の仕事、女は、女の仕事が一人前にできるようになると結婚させる。

男は、マキリ makir (小刀) に模様を刻んで女に送り、女は、ホシ hos (脚絆)、テクンベ tekun-pe (手甲) に刺しゅうをして男に送る。これが、男女とも一人前になった印である。

結婚は、男が女の家に行き、女の作ったものを半分食べ (イタンキ アラケ アンエ itanki arke an e)、残りを女が食べると成立する。酒があれば、近所の者もいっしょに酒をのむ。

結婚した女は、ポン メノコの時からしていた刺青を大きくする。(6-1) また、結婚前のポンメノコは、帯を乳の下あたりでしめている (オリ クツ コロ ori kut kor) が、結婚した女は、帯を下腹のあたりでしめる。

結婚しても、妻に子ができない時、男は妾をもつ。[石山長次郎・キツエ御夫妻・杉村京子氏 12月12日]

#### 6-6 子供の遊び

アイシノツ aysinot は、主に男の子の遊びで、アイ スプ ay sup (矢柄) を地面にさし、それ

をねらって弓(シノツ クsinot ku)で矢(シノツ アイsinot ay)を射て当てる遊び。

ウコカリプウクukokarip ukは、ぶどうづるで作ったカリプkarip(輪)を互いに投げ合い、それを長い棒(ニni)で受ける遊び。

その他に、足をつぎつぎとからめていく遊び、モン モンmon mon、アミ アミami amiという遊びがあった(詳細は聞いていない)。けんかは、ウコイキukoykiと言い、取っ組み合いは、コオテレケkooterkeと言う。〔石山長次郎氏・杉村京子氏 7月2日 12月12日〕

#### 大人の遊び

ウポポupopoを女三人で、次々と前の人の言葉をとって行なう。言葉につまった者が負ける。これをウコク ウポポukok upopoという。

大人たちが楽しむもので、食事の後に行なうウポポがある。それは、「イワン サッチェプ iwan satcep(6匹の干鮭)があったが1つ足りない、とったのは誰か」と問うウポポである。一人の女がイタンキitanki(おわん)を頭に寄せ、それを踊りながら床に落とし、おわんが伏せた状態で落ちると、その人はうそをついたことになる。つまり、その人が、魚をとった犯人である。〔石山キツエ氏 7月2日〕

### 6-7 親族用語

父：第三者との話しの中で指す時(以下、指示語と呼ぶ)オナonaあるいはク オナku onaと言う。ク ハンベku hampeとは言はない。話者が、自分の父親に向かって呼びかける時(以下、呼びかけ語と言う)ハンベhampeと言うが、ク ハンベku hampeとは言わない。母が自分の子に、その父親のことを指して言う時、エコロハンベkorhampeと言う。

母：第三者との話しの中で指す時に、ウヌunuを使う。呼びかけ語として、トットtottoを用いる。

祖父：第三者との話の中で指す時、及び呼びかける時、両方の場合に、エカシ ekasiを用いる。ク コロ エカシku kor ekasiと言うが、ク エカシku ekasiとは言わない。

祖母：指示語としても、呼びかけ語としても、フチhuciを用いる。

曾祖父：指示語として、マクタ エカシmakta ekasiを用いる。エ コロ マクタ エカシ e kor makta ekasiと言える。

曾祖母：指示語としてマクタ フチmakta huciを用いる。

先祖：シンリッsinrit

姉：ク サポku sápoを指示語として用いる。サポsapoを呼びかけ語として使う。

妹：男からみて、ク マタキku matakiを指示語、マタキmatakiを呼びかけ語として用いる。女からみて、トゥレシtures、ク コロ トゥレシku kor turesを指示語として用いる。トゥレシturesと呼びかける。

兄：ク ユボku yupo、ユボyupoを指示語、呼びかけ語として使う。

弟：ク アキku akiを指示語、呼びかけ語として使う。

子：エカチekaci、大きくなると男の子をオクカヨokkayo、女の子をマツネmatneと指して言う。(6-1)

息子：ク ポーホku poho、または、ク オクカイポku okkaypoを指示語として用いる。呼びかけ語として、名前を使うが、大人になると名前は使わず、ペウレ クルpeure kur を用いる。長男は、ク ポロ オクカイポku poro okkaypoを指示語として使う。それ以外は、ku okkaypoと言う。他人の長男には、キアンネクルkiannekurを指示語として用いる。

娘：マツネポmatnepoを指示語として用いる。

孫：ク ミブポku mippo、ミブポmippoを指示語、呼びかけ語として用いる。

曾孫：サンミブポsanmippoを指示語、呼びかけ語として用いる。

夫：ク ホクku hokuを指示語として用いる。夫を重んじて言う時、ク コロ ニシパku kor nispa、エ コロ ニシパe kor nispaを用いる。

妻：ク マチku maciを指示語として用いる。妻を重んじて、エ コロ カッケマツe kor kotkematを用いる。

おじ：ク アチャku aca、ク アチャポku acapoを指示語として使う。ポロ アチャポporo acapoを呼びかけ語として用いる。

おば：ウナラベunarpe、ク ウナラベku unarpeを指示語として使う。本人のいる場では、ク コロ ウナラベku kor unarpeを、指示語として使う。

大おじ：マクタ エカシmakta ekasi、ク コロ エカシ ユビku kor ekasi yupi を指示語として使う。

大おば：フチhuciを指示語として使う。

甥：ク カラクル ku karkurを指示語として用いる。甥の中でも、区別したい時、兄の子は、ク ユビ ク カラクルku yupi ku karkurと言う。

姪：ク マツ カラクルku mat karkurを指示語として使う。

甥・姪の子：サン ミブポsan mippo、ク サン ミブポku san mippoを指示語として使う。

婿：娘の婿を指す時に、コツネ クルkotne kur、ペウレ クルpeure kurを用いる。呼びかけ語として、kotne kurを用いる。

嫁：息子の嫁の指示語として、コシマツkosmat、ク コシマチku kosmaci、ク ポ コシマツku po kosmatを用いる。孫の嫁の指示語として、ク ミブポ コシマツku mippo kosmat を使う。

息子の嫁の父を、ク コシマツ ハンベku kosmat hanpe、母を、ク コシマツ トットku kosmat tuttoと言う。

親を指すことばは知らない。いつも、父(ハンベ)、母(トット)と言う。〔石山長次郎・キツエ御夫妻 10月11日〕

6-8 人間の身体部位名称 (2-1-5)

頭部

サパsapa	頭 (アゴより上部)
メチャクコmecakko	頭蓋
オトビotopi	髪
エピッチェepitce	はげ頭
ナヌnanu	顔
キサラkisar	耳 (アシパaspa耳に障害のある人)
キサラ プィkisar puy	耳の穴
キプトウルkiputur	額
ラルraru	まゆ
シクラブsikrap	まつげ
シクカプsikkapu	まぶた
シクsik~シキsiki	目
シクヌムsiknum	眼球
ノタカムnotakam	ほほ肉
エトウetu	鼻
エトウプィetupuy	鼻の穴
エトウプシetupus	鼻柱
チャブシcapus	口部 (capus ka ta rek as「口の上に毛が生える」)
パロparo	口腔 (話し、食べる所)
パルンベparunpe	舌
ニーコトロnikotor	口蓋
ニマキnimaki	歯
ニウリniuri	歯そう
パートウィpatuy	口びる (patuy turiri, tan ekaci「口をとがらしている、この子は」)
レクrek	口ひげ
ノッケウnotkew	下あご、あご骨
ノヤビnoyapi	あごの先
レクチrekuci	首、喉
イペレクッiperekut	食道
セウリsewri	気管、のど仏
オクスツokusut	うなじ

## 胸部

ネトパケ netopake	体
トウマム tumam	胴 (手足を含まない)
クーケウ kúkew	肩、肩甲骨
ペンラム penram	胸
カバラ カム kapar kam	あばら肉
ホニ honi	腹
チンケウ cinkew	腰
セトウル setur	背
イクケウ ikkew ～イクケウエ ikkewe	背骨
トー to	乳房
トーペ to pe	乳
オソロ osor	尻
オソロ カム osor kam	尻の肉
シー ブィ si puy～シーブィエ sipuye	尻の穴
チエ cie	男性器
ノク nok	こうがん
ポク pok～ポキ poki	女性器 (子供のもの、ハクカタブ hakkatap) (成人の男女性器は、共に、エ コロベ e korpe 「おまえのもの」と呼ぶ)。
エハ eha	へその緒 (十勝方言でアハaha [大村ユキ])
ハンク hanku	へそ
ユクラム yukram	肺
オシケ oske	内臓
サムベ sampe	心臓
イラムモロケ irammoroke	内臓膜
ヨシペ yospe	胃
トウイ tuy	腸 (大腸をルエ トウイ rue tuy、小腸をアーネ トウイ <sup>1</sup> ane tuy)
キノブ kinop	腎臓
チョココブ cokokop	?
ピセ pise	ぼうこう
ラー ra	肝臓
シウベ siwpe	胆のう
キリ kir	髄

## 肢部

タブキリ tapkir	肩
タブスツ tapsut	腕 (肩から手首まで)
テンニコロ tennikor	うでの筋肉
シットキ sittoki	ひじ
サンテケ santeke	下腕 (ひじより下手首まで)
テク ニニ tek nini	手首
トコン ポネ tokon pone	手首の骨
テク tek	手
テクモム tekmom～テクメクカ tekmekka	手の甲
テクコトロ tekkotor	手の平
アシケペツ askepet	指
アミ ami	つめ
ケマ kema～サンチキリ sancikir	脚 (kema ape keskes 脚が火でまっかになる)
オミ omi～オミヒ omihi	もも
オムカム omkam	ももの肉
コクカソバ kokkasopa	ひざ
ニサッ nisat	すね
ウチカム ucikam	ふくろはぎ
チキリ クツ ニニ cikir kut nini	足首
チキリ トコン ポネ cikir tokon pone	くるぶし
ケスビ kesupi	かかと
ケットウムケ kettumke	アキレス腱
チキリメクカ cikirmekka	足の甲
チキリアサム cikirasam	足の裏

[石山御夫妻 10月11日、11月2、3日]

## 6-9 身体の世話

### 6-9-1 子供の世話

赤ちゃんには、おしめ (シヤイケブ siyaykep) を使い、そのおしめは、ふきの葉、ぶどうの葉を使い、使い終わると投げ捨てた。

子守りは、母親以外には兄姉の仕事で、衣服の中に子を背負う。転んだ時にも、子供は安全である。



弟妹が生まれると、子供は一人で寝かされた。寝小便は、あまりしなかった。子供に厚着はさせず、夏など素足（エル チキリ eru cikir）で歩いていた。

### 6-9-2 髪型・イレズミ・身体装飾

往時の子供の髪型は、前頭部、頭頂、後頭、左右側頭に髪を残して他は剃った。サランベチャ saranpe capとか、マキリで剃った。ヨチヨチ歩きの子供が転びそうになると、残った部分の髪をつかんだ。

大人の男は、前髪のみを剃り上げたが、女は剃らなかった。男も年寄ると、剃り上げをせず、伸ばしたままであった。（現在、この風俗はない）

丸顔で巻き毛が美しいとされた。直毛（ペペシ レキ pepes reki）で面長（エシ es）は、醜いと思われた。

イレズミは、結婚前、ポン メノコの時にする。結婚後は、イレズミを大きくする。イレズミをしている huci は、少なかった。（6-1と6-5）

その他の身体装飾については、尋ねていないので未詳である。

### 6-9-3 病気および治療

#### 動物医療

シウベ siwpe（胆のう）は、熊、ムジナ、魚のものを用い、乾燥したのち、削って飲む。胃に効く。

熊の骨をしゃぶった（ケブケブ kepkep）後、焼いて粉にして飲む。神経痛に効く。

イオマンテで皮はぎ（イリ iri）している時、腹部にたまった熊の血（ケム kem）をトゥキ（杯）にすくって飲む。（その時に、“honi oske kem ku”「腹の中の血を飲め！」と言う。）特に病弱な者が飲むように言われる。体が丈夫になる。（2-3-8）[石山御夫妻 11月3日]

#### 植物医療

シケレベ sikerpe（シコロの実）、その実を煎じて、飴状にして飲む。味は苦い。ぜんそくに効く。皮の内皮を煎じて麦粉と混ぜ、湿布薬（ニーマウ nimaw）とする。

キキンニ kikinni（エゾウワミズザクラ）、枝のまま煎じて、茶のようにして飲む。苦く、臭いが強い。風邪に効く。その実は食用になる。

プシネ プィ pusne puy（ほうの実）を煎じて飲むと、腹痛に効く。

クッチ プンカラ カプ kutci punkar kap（こくわのつるの皮）は、腎臓、ぼうこうがつまった時、煎じて飲むと、尿管の通じがよくなり、小便の出が治る。

スス susu（ばっこやなぎ）の皮は、湿布薬（ニーマウ nimaw）になる。

ソコンニ カプ sokonni kap（エゾニワトコの皮）、シコロの皮と混ぜ、麦粉、少量の酢を混ぜ、

湿布薬として使う。膝に水がたまった時に、それを治す。

ラウラウrawraw (テンナンソウ、ヘビノタイマツ) をおろし、金ですって麦粉で延ばし、布を患部にあてた上にこれを塗る。解熱効果あり。

プクサpukusa (ギョウジャニンニク) は、煎じて飲むか、これを煮た鍋に顔を入れ、上から布などをかぶせ、湯気を吸うと風邪に効く。

トゥレブturep (ウバユリ) のオン トゥレブ on turep (発酵させたウバユリのデンプン) は、削って飲むと、腹痛、二日酔いに効く。

カムマニkammani (ナナカマドの木) の皮で生でかむ。せきに効く。

ウンコトクunkotok (松ヤニ) を粒にして、生で飲み込む。せきに効く。

シウカルシsiwkarus (エブリコ) 松にできる白い色のさるの腰かけのような形のもの。粒、粉にして飲む。腹痛に効く。

ベカンペpekanpe (ひしの実) は、胃下垂に効く。

ニーヌムninum (くるみの実) を焼いて、真赤にしたものを、湯に入れて飲むと、風邪に効く。〔石山御夫妻、清水キクエ氏、杉村京子氏 10月10日〕

#### 6-9-4 お守り・魔除け・災害除け

ノンノnonno (お守り) の類には、次のものがある。

オクルベokurpe (ヤツメウナギ) の頭を乾かし、口から顎にひもを通し、子供の首からぶら下げる。男も女も、生まれたらすぐ身につける。これは、タンネ カムィtanne kamuy (へび) に因んで(7-1) 魔除けの力があると言われる。若者になるとはずす。イケマのお守りとはいっしょにしない。〔石山御夫妻、11月15日〕

子供がかぶる コンチkonci (帽子) の先に、イセポ キサラ isepo kisar (うさぎの耳) の内皮をつける。〔伊沢ヒサ氏、大村ユキ氏 12月6日〕

ウパシ チロンヌプupas cironnup (白キツネ) の頭の皮をはぎ、イナウ キケinaw kike (削りかけ) をサパウンベ sapaunpe (イオマンテの時、男のつける冠) のようにつけ、いつもふところに入れて置く(2-3-4)。これは、ノンノ nonno と言わず カシ カムィ kas kamuy (守り神) と言う。健康を祈り、豊猟を願う。病人など出た時、ふところから出してお願いする。酒を作った時は、酒を捧げ、カムィ ノミ kamuy nomi (神への祈り) をする。病気などが治ると、新しい キケ kike をつける。猟のため山へ行く時は、持っていない。

チロンヌプ cironnup (キツネ) の頭を、カシ カムィ kas kamuy として、神窓の右手、チセコロ イナウ の近くにぶら下げるか、イヨイキリ iyokir (家の隅の壁の笹の中) に置く。チロンヌプの中でも、牙の大きい (ニマキ ネ コロベ nimaki ne korpe) ものを選んで尊ぶ。これは、キツネの中の サパネクル sapanekur (王様) である。頭のまわりに、キケ kike (削りかけ) をつけておく。酒を作ると、カムィ ノミ kamuy nomi をし、病人が出たり、好猟を願う時には、

チタラベcitarpeの上に置き、家の主人が願ひする。病気が治ったり、良い獵があつ時には、新しくキケをつける（そのキケは、チロンヌプの着物と考えられる）。エカシ（祖父）所有のキツネの頭は、エカシが亡くなると、シトゥ イナウsitu inawをつけて、イナウサンinawsanで送る。

ペーヌプpénup（イケマ）など、くさい臭いのする草の根（ムン オウシmun ous）に白黒の木綿糸をよってひもにして、首からぶら下げる。全体で、20cmほどの長さである。子供が歩けるようになると、ムンオウシをつけ、男の子は、中学ぐらいまでつけている。女は、その後も、切れた時に、ひもをつけ変えながら身につけている。また、ムンオウシは、臭いがなくなると新しいものと替える。

イケマは、悪い魔物に対して効力があり、夜泣きする子がいると、イケマを使って魔除けをすると夜泣きがやむ。

キキンニ、カムマニと、このペーヌプは、戸口にさして置くと、ニッネ カムィnitne kamuy（悪神）を払うことができる。

熊のトゥィtuy（腸）は、お産を軽くするお守りとなる。イオマンテの時、男の人が、隠して持ってくる（2-3-8）。このtuyを巻いて腹帯にしめる。使い終わっても、家にとっておき、娘に伝える。しかし、決してその熊を獲った人の名を教えるはいけない。獵師の名が分かると、その狩人は不獵になると言われている。

ノヤnoya（ヨモギ）は、カンナカムィkannakamuy（雷）が鳴った時、炉にくべると、その臭いを嫌って早く通り過ぎる。（10-3）

ニスnisu（うす）：台風が来た時、家の中で、棟木にうすをぶら下げると良い。〔石山御夫妻 杉村京子氏 12月12日〕

チライciray（イトウ）：シリ シスシモエsir sissimoe（地震）は、世界一大きいチライ（イトウ）が起こす、と考えられ、炉の入口よりの所で、炉の灰に、「チライの尾までとどけ」と火かき棒を突きさす。〔大村ユキ氏 12月13日〕

#### 6-9-5 占い・慣行

ニオクniokは、占うことで、ウパシ チロンヌプupas cironnup（6-9-4）の頭を出してきて（カシ カムィkas kamuyとして家の中のロロ（上座）の右手に置いておく）、病人が、どのくらいの期間で治るかを尋ねる。男であっても、女であっても、占いをする。

トゥスtusuをする能力のある人を、ヌプル クルnupur kur（霊力のある人）と言う。ラタシケ プrataskep（食用植物）を火にくべ、あくびをしてトゥスが始まる。トゥスをする人は、運命が目で見えたり、耳できこえたりする。また、手で病人に触れ、運命を判断する場合もある（これを、テケ イヌteke inuという）。〔石山御夫妻 11月2日〕

テンリッtenritは、熊の胸にある筋で、それを4本、カパラ カムkapar kam（あばら肉）をつ

けたまま煮る。煮ると、短かく縮む。これと、キケkikeを適当な長さに切ったもので長さを比べる。テンリツとキケの長さが同じであれば、今春の熊猟が豊猟である。

イオク*iok*と言う小さなイナウにキケをつけて、2、3本イオマンテの熊肉の中に入れて煮る。その肉を皆で分けて食べる時に、このイオクが肉の中に入っていたものは、何か良いことがある、と言って大喜びする。男も女も、それを自分の家に持ち帰り、家に置いておく。

#### 予感

右目の下が動くと、良い事が起きる。左目の下が動くと、悪い事が起きる。

頭がスツとする時があると、その後、天気良くなる。

喉から啖が出にくく、からんでいる時、天気が悪くなる。

喉が鳴ると、近く、おいしいものにありつける。ある人にとっては、天気が悪くなる予兆。

しゃっくり(セスセレケ*sesserke*)が出ると、身近に泣くような事(不幸)が起きる。

ノイプル イクシ*noypur ikus*: 頭が、ギリギリ痛くなる。頭の方を変えても、向いている側の頭が痛く感じる。そういう時に山猟をしていたら、痛くなっている方向から熊が現われる。家にいる時は、その方向から客が来る。(7-4) [石山御夫妻、清水キクエ氏 10月10日]

#### 夢占い

夢を、チニタ*cinita*、ウエンタラプ*wentarap*と言う。良い夢を、ピリカ チニタ*pirka cinita* 悪い夢を、ウエン チニタ*wen cinita*と言う。アペ ウチ(火の神)に背中あぶりして寝て、良い夢を授かるように火の神に頼むこともある。夢占いをするのは、女が多い。

大蛇の夢をみると、大熊がとれると言われる。

男の子がカスリの着物を着て玄関に立つ夢をみたら、ポン シウク*pon siuk*(雄の小熊)が獲れた。

オンネ フチ(年老いた祖母)から、反物をもらった夢をみたら、熊がとれた。

汚いエカシ(爺さん)が家に入ってきた夢をみた時、好猟だった。

美しい着物を着た人が家に入ってくる夢は、悪い夢で不猟になる。

ロット*rotta*(上座)に朝顔が咲いている夢をみた時、熊が猟れた。

キムン カムィ(熊)を獲った夢をみたら、不幸が起きる。

キムン カムィの夢は、良い事もあるし、悪い事もある。

タンネ カムィ*tanne kamuy*(へび)の夢は、心ず良い事がある(7-1)。

[石山御夫妻、清水キクエ氏 10月10日]

#### 6-9-6 死者の取扱い

人が死ぬと、チセ*cise*(家)の模型をもたせる。幼ない者が死ぬと、先祖の持って行ったチセの所へ行けよ、と言ってやる。スー*su*(鍋)、トゥキ*tuki*(杯、ただし、アペ ノミ トウキ*ape-nomi tuki* 火の神に祈りを捧げるときに使う杯)、弓矢など、生前使っていたものを持たせる。

人が死ぬと、ライ チシカラ ray ciskar (泣く) をする。節のついたライ チシカラは、女性のみ行なう。シンヌラップパ sinnurappa あるいは、イチャラパ icarpa は、先祖を祭る、という意味で、夜に、スネ sunne (灯り) をつけて行なわれ、その行なう場所は、家の戸口から西北、家から離れた所である。(葬儀などの儀礼に関しては、未詳である。) [石山御夫妻、清水キクエ氏、杉村京子氏 10月4、11日]

水死した者を葬る時、男は、エムシ emus (刀剣) を、女は、クワ kuwa (杖) をもち、ペウタンケ pewtanke (不幸を知らせる声を出す) しながら、家壁を打ちならした後、葬列に加わる。  
[伊沢ヒサ氏 12月6日]